

【参考】「KYOTO地球環境の殿堂」について

「KYOTO地球環境の殿堂」は、「京都議定書」誕生の地である京都の名のもと、世界で地球環境の保全に多大な貢献をした個人・団体を殿堂入り者として顕彰し、その功績を称えるために、KYOTO地球環境の殿堂運営協議会により、2010年に創設されました。京都から世界に向けて広く発信することにより、地球環境問題の解決に向けたあらゆる国、地域、人々の意志の共有と取組に資することを目的として、気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3）が開催された国立京都国際会館において、殿堂入り者の表彰式を毎年開催し、その功績を展示しています。

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、表彰式を順延しました。

「KYOTO地球環境の殿堂」運営協議会		
名誉会長	環境大臣	山口 壯
会長	総合地球環境学研究所所長	山極 壽一
副会長	京都府知事	西脇 隆俊
	京都市長	門川 大作
	京都商工会議所会頭	塚本 能交
委員	環境省地球環境局長	小野 洋
	国立京都国際会館館長	内田 俊一
	国際高等研究所所長	松本 紘

○ 殿堂入り者選考基準

KYOTO地球環境の殿堂入り者は、次の各号に掲げる基準に照らし、世界的な視点から地球環境の保全に多大な貢献をされたと認められる候補から選考しています。

- (1) 京都議定書をはじめとする地球環境保全に関する世界的な制度の成立や合意形成に多大な貢献をされた方
- (2) 世界の人々に対する環境と共生する思想・哲学の普及や意識啓発、環境保全に関する活動の実践により地球環境の保全に多大な貢献をされた方
- (3) 地球環境問題の解決に資する画期的な学術研究や技術開発を行い、その成果が現実に地球環境問題の解決に大きく貢献していると認められる方
- (4) 芸術文化活動やエコなライフスタイルの実践など、地域での創造的な環境活動により、環境保全に貢献していると認められる方

「KYOTO地球環境の殿堂」選考委員会		
選考委員	(特非) 気候ネットワーク 代表	浅岡 美恵
	京都精華大学 学長	ウスビ・サコ
	山階鳥類研究所 所長, 関西学院大学 名誉教授	奥野 卓司
	歌手 (元国連環境計画親善大使)	加藤 登紀子
	世界自然保護基金 (WWF) ジャパン専門ディレクター	小西 雅子
	東京大学未来ビジョン研究センター 教授	高村 ゆかり
	学校法人先端教育機構 SDGs 総研 主任研究員 日本ビジネス出版 環境ビジネス編集長	白田 範史
	インド・エネルギー資源研究所 上席研究員	ラビンダー・マリク
	環境省地球環境局長	小野 洋
	(公財) 大学コンソーシアム京都 理事長	黒坂 光
	総合地球環境学研究所 所長	山極 壽一
	(公財) 地球環境産業技術研究機構理事長	山地 憲治

○ 展示内容

殿堂の趣旨説明, 第1回~第11回殿堂入り者の功績や肖像織 (西陣織), 殿堂入り者からの寄贈品などのほか, COP3の紹介や京都議定書の採択を決めた「木槌」を展示しています。

【参考】歴代の殿堂入り者

第1回	グロ・ハルレム・ブルントラント氏 (ノルウェー王国) ワンガリ・マータイ氏 (ケニア共和国) 真鍋 淑郎 (まなべ しゅくろう) 氏 (アメリカ合衆国)
第2回	原田 正純 (はらだ まさずみ) 氏 (日本) エリノア・オストロム氏 (アメリカ合衆国) シグミ・シンゲ・ワンチュク 陛下 (ブータン王国)
第3回	レスター・R・ブラウン氏 (アメリカ合衆国) クラウス・テプファー氏 (ドイツ連邦共和国)
第4回	エイモリー・B・ロビンス氏 (アメリカ合衆国) ヴァンダナ・シヴァ氏 (インド共和国)
第5回	宮脇 昭 (みやわき あきら) 氏 (日本)
第6回	畠山 重篤 (はたけやま しげあつ) 氏 (日本)
第7回	ハーマン・E・デイリー氏 (アメリカ合衆国) デヴィッド・タカヨシ・スズキ氏 / セヴァン・カリス=スズキ氏 (カナダ)
第8回	オギュスタン・ベルク氏 (フランス共和国) ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノ氏 (ウルグアイ東方共和国) 中村 哲 (なかむら てつ) 氏 (日本)
第9回	ミゲール・A・アルティエリ氏 (チリ共和国・アメリカ合衆国) マーガレット・アン・マッキーン氏 (アメリカ合衆国) デニス・L・メドゥズ氏 (アメリカ合衆国)
第10回	クリスティアナ・フィゲレス氏 (コスタリカ共和国) 山折 哲雄 (やまおり てつお) 氏 (日本) エゴ・レモス氏 (東ティモール民主共和国) 【10周年記念特別賞】
第11回	IPCC (気候変動に関する政府間パネル) メアリー・ロビンソン 氏 (アイルランド共和国)

